佐倉コメント

田中祐理子「パンデミックと差異の再構成」

・歴史の重要性→ケヴィン・ケリー（via 戸田山）にも通ずる？

・問題を「再開」すること
　～なぜ過去の教訓を（社会は、個人は）「忘れて」しまうのか？

・“communes”
　※共有する人々の「範囲」は？
　※再創造のプロセスすらシステム化＝既得権益化されつつある？

・We/they,　「語りようがない当事者たち」
　※言葉は届くのか……

佐倉コメント

林芳紀「パンデミック対策と生命倫理」

・公衆衛生倫理、新型フルー、SARSなど
※現行生命倫理の背景にある西洋エピステモロジーの影響は？
～東アジア社会では異なる社会的状況、文化的背景があるのでは？

・「答え」を出すことの難しさ【→田中講演と共通】

・特定の「価値」にもとづいていることの自覚化、明示化
※同意しつつ、難しそう……

・信頼向上、連帯促進のための倫理的枠組み→互恵性をどう考えるか
※互恵性を担う主体は誰／どこか？　国か、個人か、企業か、地域か？

佐倉コメント

青野由利「科学ジャーナリズムの視点から」

・2009年新型インフル時の振り返り→同じ問題群が指摘されている【cf. 田中】
※韓国、台湾のMERS体験との違い、被害の度合い？

・専門家の人材育成
※日本の科学・技術の総合的水準に関わる問題か

・専門的知見と政治的意思決定の関係、専門家組織が独立でよいのか
※政治家が責任をとるというのもうまくいかないのではないか

・科学的知識の不確定性も含めたリスクコミュニケーションを
※同意しつつ、それで世間は許してくれるのか？

佐倉コメント

全体コメント

・「答え」ではなく「問い」や「枠組み」を提示することの意義

・理論と実践の相互往還をどう実現、確保するか

・「学術的に扱う」こと自体による分断の強化とどう向きあうか

・リスクやコミュニケーションの学術的位置づけ、人材育成

・科学的知見（データ、数値、統計）を日常生活の文脈でどのように使いこなすか

→日常生活の科学技術、専門家と社会の間の「縁側」が大事